

平成13年度当初予算 基本事務事業目的評価表

【基本事務事業名】 林業生産基盤整備事業 (308)
【評価年月日】 12年11月14日
【担当部課名】 環境部 森林保全課
【記入課名・課長名・電話】 森林保全課 課長 奥山宏治 2561

1 総合計画の政策体系上の位置づけ

政策 : 安心を支える力強い農林水産業の振興 (- 1)

施策 : 地域特性を生かした生産振興と安心で効率的な流通体制の確立 (2)

総合計画の目標項目 林道整備率 54%

波及効果・副次的効果を及ぼすと考えられる施策 森林・農地・海岸の持つ公益的機能の増進

2 基本事務事業を巡る環境変化(過去、現状、将来)

林道は、効率的な林業経営の展開や森林の適正な維持管理にとって不可欠であるとともに、山村の生活環境の整備等にとっても重要な役割を果たしてきている。しかし、近年、森林への期待が木材生産から公益的機能の高度発揮に移る中、本県の林道整備も、森林の機能を高めその機能が高度に発揮されるように森林整備が促進されるための路網整備に、より重点をおく必要があると思われる。

3 基本事務事業の目的と成果

3-(1) 対象と意図(何をどういう状態にしたいのか)

市町村及び森林所有者等の有する森林に森林整備のための路網整備等を促進することにより、効率的な林業経営が展開されるとともに、森林整備が促進され、森林の持つ水源の涵養、土砂流出の防止、酸素の供給、炭素の吸収・貯蔵等の公益的機能が高度に発揮されるような森林づくりが促進される。

3-(2) 成果指標名・成果指標式(総合計画の目標項目には*を付す)

成果指標名 : * 林道整備率

成果指標式 : $\frac{\text{林道延長(m)}}{\text{整備目標林道延長(m)}}$

変更した場合の成果指標名・成果指標式

3-(3) 設定した成果指標に関する説明(指標動向に影響する要因、指標の有用性、設定の理由など)

林道は、効率的な林業経営の展開や森林の適正な維持管理にとって不可欠であるとともに、山村の生活環境の整備等にとっても重要な役割を果たしてきた。今後は、森林の有する公益的機能の高度発揮への期待がますます高まり、その機能を高度に発揮するための森林整備の促進が重要となる。このため、森林整備の促進に不可欠な林道の整備率を成果指標として設定した。

3-(4) 結果(施策における2010年度の目標)

林道整備の推進により、間伐を中心とする森林整備が促進され、水源の涵養、酸素の供給、炭素の吸収・貯蔵等森林の有する公益的機能の増進が図られるとともに、搬出距離の縮減、高性能林業機械の導入等により木材生産の経費低減等が図られ、安定的な林業経営が図られる。

4 基本事務事業の評価

4-(1) 前年度 (H11年度)における基本事務事業の結果評価

前年度に行った内容と成果

< 森林保全課長 >

林道は 33km 開設し、整備率は、0.9%増の 53.7%となった。(計画:52.7%) また、間伐等の森林整備に直結する作業路の整備も促進した。

前年度に残った課題

< 森林保全課長 >

林道は、効率的な林業経営の展開や森林の適正な維持管理にとって不可欠であるとともに、山村の生活環境の整備等にとっても重要な役割を果たしてきたが、近年、森林の有する公益的機能の高度発揮への期待が高まり、その機能を高度に発揮するための森林整備の促進が重要となっている。このため、森林整備の促進に不可欠な林道の整備も、従来の木材生産のための基盤整備から、環境財としての森林の機能の向上を図るための基盤整備という方向の理解の醸成を図る必要がある。また、予算の効率的な運用を図るため、コスト縮減等に努めるとともに環境に配慮するため木材を利用した工法等の利用拡大に引き続き取り組む必要がある。

4-(2) 本年度(12年度)における基本事務事業の見込み評価

本年度行っている内容と本年度終了時に見込まれる成果

< 森林保全課長 >

コスト縮減等により、開設延長の伸長を図り、35km の林道開設により整備率を 54.8%に引き上げるとともに、間伐材等を利用した工法、緑化工法等の採用により、自然に優しい林道工事に努める。また、森林整備に直結した作業路等を 18km 開設し、間伐等の促進を図る。

本年度残ると思われる課題

< 森林保全課長 >

森林は適正に維持管理されてはじめてその機能を十分に発揮するため、その基盤となる林道、作業道等の路網整備が急がれるが、緊急かつ効率的な森林整備を実施するためには、森林整備計画に沿った路網整備計画を樹立する必要がある。また、路網整備に当たっては、森林整備の目的に適合した構造、規格によるほか、森林施業の効率化を図るため、高性能林業機械の導入に対応した作業ポイントの設置等を図るとともに、側面的な支援として間伐材等を利用した工法等の積極的な活用に努める必要がある。

5 基本事務事業の改革方向

< 森林保全課長 >

林道は、効率的な林業経営の展開や森林の適正な維持管理にとって不可欠であるとともに、山村の生活環境の整備等にとっても重要な役割を果たしてきたが、今後は、森林の有する公益的機能の高度発揮がより期待される。森林の機能を高めるためには、間伐を中心とする森林整備の促進が重要であり、林道、作業道等を効率的に組み合わせた林内路網の計画的な整備が必要となる。このため、林道等の開設に当たっては、当面、間伐等の森林整備の促進に重点を置き、目的とする森林整備の内容に適合した構造、規格によるほか、自然環境の保全に配慮しつつ、森林の有する公益的機能が高度に発揮されるよう、適切な工法、路線配置等に配慮する必要がある。また、規格、構造等の見直しによるコスト縮減に引き続き努めるとともに、木材を利用した工法等自然に優しい工法の導入を積極的に進める必要がある。

6 成果指標値及びコスト等の推移

	成果指標値		総合計画	予算額等 (千円)	必要概算
	目 標	実 績	目標数値	所要時間 (時間)	コスト(千円)
前々年度 (H10年度)	52.0%	52.8%	52.0%	5,160,490 51,555	5,375,990
前年度 (H11年度)	52.7%	53.7%	52.7%	3,972,655 40,370	4,141,493
本年度 (H12年度)	53.3%	- %	53.3%	3,638,355 35,260	3,784,686
本年度補正後 (H12年度)	53.3%	- %	53.3%	+ 109,513 + 960	+ 113,498
翌年度 (H13年度)	54.0%	_____	54.0%	3,534,012 35,900	3,684,433
計画目標年次 (H47年度)	100%	_____	-	_____	_____

7 本年度の基本事務事業における事務事業戦略プランシート(PPM：ProjectPortfolioMatrix)

〈必要概算コスト： ☆5億円以上 ◎～1億円 ◇～5千万 △～1千万 ・1千万未満 *休止・廃止〉

基本事務事業の成果向上への貢献度合



※ 各事務事業名の右に付した矢印は、それぞれの事務事業に対する力の入れ具合である「注力」の変化の方向を表している。

8 基本事務事業を構成する事務事業の詳細
新規事務事業には、事務事業名に (新) を付す

8 基本事務事業を構成する事務事業の詳細
新規事務事業には、事務事業名に (新) を付す

[illegible]